

第8週(2月17日～2月23日) トピックス: <後天性免疫不全症候群>

京都市では、半期ごとのエイズ患者*・HIV感染者**数を集計し公表しています。市内の医療機関から、2024年7月から12月末までに、エイズ患者3例・HIV感染者2例、計5例の報告がありました(令和7年2月28日公表、下記URL参照)。本感染症は感染症法において5類感染症(全数把握)と規定されており、診断した医師は7日以内に届出なければなりません。

本市の年間報告数は、2006年の25例をピークに減少し、2020年までは年間9～19例で推移した後、新型コロナウイルス感染症が流行中の2021年～2022年はともに年間4例と大きく減少しましたが、2023年には再び増加して13例、2024年は9例と新型コロナウイルス感染症流行前と同様の状況となっています(図1)。全国では2013年の1,586例以降、減少傾向となっていたが、2023年から増加に転じ、2024年は991例となっています(図2)。

なお、診断された時点でAIDS(いわゆる「いきなりエイズ」)であった割合は、平均すると本市、全国ともに約3割ですが、わずかながら割合の増加が見られます(全国:2022年28%、2023年30%、2024年33%)(図1、2)。

本市で検査を開始した1987年(昭和62年)以降の累積報告数398例の詳細を見ると、エイズ患者138例(34.7%)、HIV感染者260例(65.3%)となっています。また、推定感染経路では、性行為感染が最も多く、307例で全体の77.1%を占めています。中でも、男性同性間の性行為感染187例(47.0%)が全体の半数近くを占めます。しかし、異性間も108例(27.1%)と決して少ないわけではありません(図3)。

近年のHIV感染症の薬剤と治療方法の進歩により、万一HIVに感染しても、早期に発見し、適切な治療を行えば、通常の生活が送れるとともに、二次感染の予防にも繋がります。感染初期は自覚症状がなく、検査を受ける以外に感染しているかどうか分かりません。京都市では、HIVに加え、性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を無料・匿名(予約制)で実施しています。感染の機会や不安がある場合には、京都市の検査を利用または、各医療機関を受診しましょう。また、不特定多数の相手との性交渉は避け、性的接触の際にはコンドームを正しく使用しましょう。

*エイズ患者 : HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染し免疫機能が低下したことにより、様々な感染症や悪性腫瘍など23の指標疾患を発症し、エイズの診断基準を満たしたもの(すでにHIV感染者として報告されているものがエイズを発症する等、病状に変化を生じた場合は除く。)

** HIV感染者 : HIVに感染し、無症候性キャリアとして報告されたもの、または何らかの症状はあるがエイズの診断基準を満たさないもの

○京都市情報館「エイズ患者・HIV感染者数について」(広報資料)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000337916.html>

○京都市情報館「京都市のHIV検査・相談について」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>

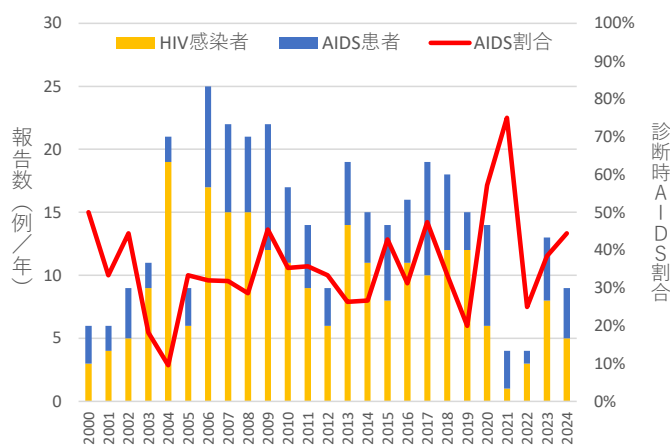


図1. 京都市のHIV感染者/AIDS患者数の推移
(2000年～2024年)

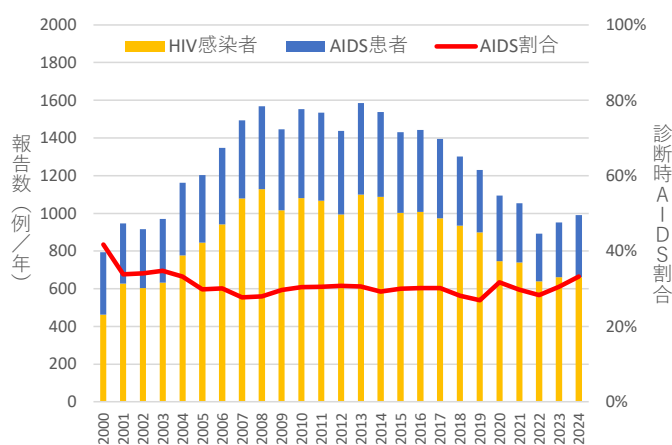


図2. 全国のHIV感染者/AIDS患者数の推移
(2000年～2024年)

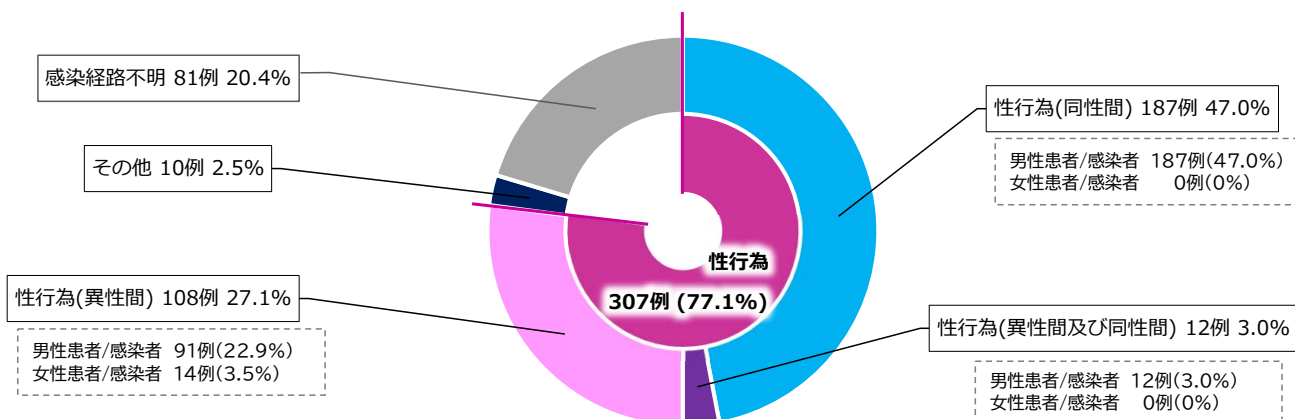


図3. 京都市の推定感染経路別の報告割合 (1987年～2024年)